

教科または領域	社会	
対象学年	小学校6年生	
授業場所	教室、パソコン室	
単元	条約改正への歩み	
単元の目標	<p>○黒船の来航から条約改正までの歩みを調べ、明治日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことがわかり、さらに国力を充実させ国際的な地位を向上させたことについて考えることができる。</p> <p>○人物の写真、当時の絵、風刺画、日本周辺の地図等の資料をもとに当時の人々の思いを理解する。</p>	
単元の指導計画	<p>第1次 岩倉遣欧使節団と条約改正 3時間</p> <p>①不平等条約って何? (1)</p> <p>②大老井伊直弼の決断 (2) 本時1/2</p> <p>第2次 条約改正の歩み 8時間</p> <p>①大日本帝国憲法と自由民権運動 (1)</p> <p>②富国強兵 (1)</p> <p>③日清・日露戦争 (2)</p> <p>④韓国併合への道 (1)</p> <p>⑤科学の発展 (2)</p> <p>⑥条約改正の達成 (1)</p> <p>第3次 近代日本の成立 1時間</p> <p>①近代日本の成立について考える</p>	
本時のねらい	<p>・井伊直弼がどうして不平等な条約を結んだのかを考える前に、井伊直弼についてもっと詳しく調べる。</p>	
指導計画	導入	<p>(1) 本時の課題をつかむ。</p> <p>・前時の疑問「どうして、井伊直弼はこんな不平等な条約を結んだのだろうか？」を思い出し、不平等条約締結の決断について考え合う前に、もっと井伊直弼について詳しく調べることにする。</p> <p>・調べることを整理する。</p> <p>生誕～死亡までの年表、素晴らしい所、短所など</p>
	展開	<p>(2) 調べることを分担し、インターネットを利用して詳しく調べる。</p> <p>(3) 調べた結果を報告する。</p>
	まとめ	<p>(4) 井伊直弼について調べたことをまとめる。</p> <p>・本当は部屋住みの一生だったが、兄の死によって彦根藩の殿様になったこと。</p> <p>・大変勉強熱心だったこと。(色々な教養)</p> <p>・大者になったこと。</p> <p>・天皇の許可を得ずに、反対意見を押し切って条約を結んだこと。</p> <p>・反対派を処罰したこと。(吉田松陰の処刑、安政の大獄)</p> <p>・暗殺されたこと。(桜田門外の変)</p> <p>(5) 次時の予告</p> <p>・次回は調べたことを参考にして井伊直弼が条約を結んだことについて考え合うことをつける。</p>
<p>その他：</p> <p>日本の近代は、幕末の開国に始まり日露戦争勝利後の条約改正の達成により、完成したと見ることができる。そこで条約改正を軸にして明治日本を学習することにした。また、児童に歴史を身近な問題としてとらえさせるために、単元の始めと終わりに「あなたはどう思いますか？」という投げかけをして考え合う授業を取り入れた。</p> <p>単元の導入は、岩倉遣欧使節の写真から、この明治新政府のスペシャルメンバーでも条約改正の交渉では欧米にまったく相手にされなかったことをとりあげ、条約改正を達成するのに50年もかかったことを知り、こんな条約を結んでしまったのは誰か？という問いを引き出した。</p> <p>そこで、条約締結時に遡り、「井伊直弼の決断についてどう思うか？」というテーマで話し合うことにした。しかしながら、子ども達は井伊直弼について詳しくは知らないので話し合う前に井伊直弼個人を徹底的に調べることにした。井伊直弼は教科書・資料集にも載っていないので、ここでインターネットを利用することになった。子どもたちがパソコン室に集まり、井伊直弼のサイトを見つけ出し、見えそうなものを教え合ったり、難しい漢字や言葉は辞典を引きながら調べ、授業後半の報告会にむけてわかりやすい言葉に書き換えノートにまとめていた。井伊直弼の趣味や性格まで調べる児童も出てきて、子どもたちは井伊直弼の人物像に益々迫ることになり、次時の話し合いへの意欲も向上していた。</p>		